

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.72 2015 年 10 月 25 日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

文化の仲間第 18 回定期総会

もっとピアノの活用を、など活発に意見交流 総会記念の特別企画として「安達元彦の音楽会」も

文化の仲間の第 18 回定期総会をスペース京浜（京浜協同劇団稽古場）で開催しました。今回は総会の記念企画として「安達元彦の音楽会」を開催することにし、音楽会は会員以外にも広く呼びかけて独自企画の扱いとしました。

総会では短時間にもかかわらず様々な意見が出されました。冒頭、カンパで 2001 年 10 月 27 日に購入したグランドピアノ（もう購入から 14 年がたちます）の利用活用について意見が集中しました。

「ピアノを公演以外の時は、出しておいた方がよい。中に入れておくと 1 階の台所から来る湿気がたまる」「ピアノ中心の企画をやった方がよい」「グランドピアノがあることを PR し、ピアノの稽古のための貸し出しをやったら」「劇団の稽古場の貸し出しをもっと本格的にやって、ピアノの貸し出しも有りますと PR する」「ピアノの貸し出しのチラシには担当者の連絡先の携帯番号も書いておく」などグランドピアノの意見が出されました。世話人会で議論してピアノの活用をもっと進めるように検討していきます。

予算関係では「文化の仲間の行事の予算を立てる時に、赤字を出さないように、予算を立てた人数（予定

参加者数）を確保する努力をもっとする」という意見がありました。予定参加者数を下回る結果になった企画もありました。議論を積み重ね自信をもって推薦できる企画を行っていますので、世話人会として予定を上回る多くの方に参加いただけるようより一層努力します。

会報に関する意見では「小田健也さんの連載が始まった（会報 No. 71 から）が良い企画だと思う」「劇団の機関紙が出ていないので、公演のたびに劇評がある文化の仲間の会報は劇団の広報としても大切」「会報にもっと軽いものも載せても良いのではないかな。毎回公演を観に来てくれる文化の仲間の会員さんがいるが、何者か知らない。会員の紹介も載せたらどうか」「劇団の大谷さんが川柳をやっていて新聞に投稿し掲載されたこともある」などがありました。会報の記事も世話人会で検討し発行していますが、総会の意見をふまえてより良いものをめざしていきます。

文化の仲間の会員拡大について「家族や、公演に出てくれている人（京浜協同劇団劇団員以外）、公演を観に来てくれる人、を会員拡大する」「会員をもっと増やす方法の一つとして、劇団員が持っている観客のリストに、公演の案内を送る時に文化の仲間への入会を呼びかけるチラシを同封する」「リストは文化の仲間にかかせる、劇団員は新しく開拓する、と出来ればいいのだが」など意見が出ました。劇団の運営委員会とも協議し、会員拡大をめざします。

世話人会の役員改選では、新しく橋本教善さんが加わり、他は留任しました。二村冬子・高橋明義・藤崎秀子（以上代表）山木健介・須田セツ子・西川日女子・小野寺晃・佐藤友吉・常名孝央・橋本教善（敬称略）の 10 名です。



活発に意見交換

会場いっぱいのお客さんと確かな時間を共有しました

総会を午前中に終え、午後からは総会記念特別企画の「安達元彦の音楽会」です。安達さんをはじめ、出演者、観客の皆さんに感想を寄せていただきました。

迷走記（経過報告）

お客さんのパワーが

安達 元彦

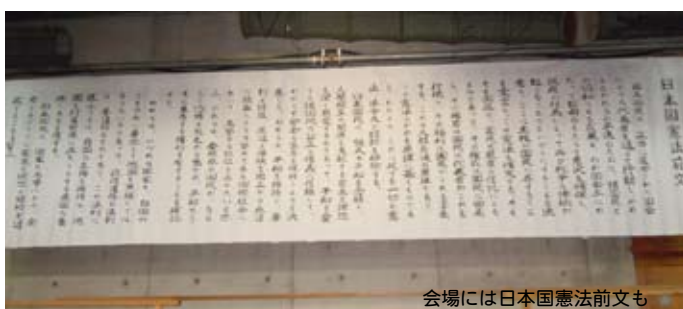
2014年7月 田中雄二さんより『いま、「集団的自衛権」におもう』メール来信。「ガツーン！」どうしたら、これを自分としてとらえてかえすことができるだろうか？ とりあえず作曲？ 日本の伝統的語り物の様式で試作。納得できず中断。（このプランは後日、岡田京子・めだか大学の集団創作として結実）

2015年2月5日 文化の仲間の二村柊子さんより来信。会報連載の拙文「京浜協同劇団と私」終了を受けて、秋の総会と抱き合わせの形で「安達元彦の音楽会」開催への打診。「安達元彦の音楽会」というネーミングに金縛り。逃げられない。「受けザァなるメェ！」なんのプランもうかばないけど……。

2月16日 第1回予備討論。以下直前までに打合せ12回、その他、和田庸子さん・二村柊子さん・細田寿郎さんなどとの小相談会5回。具体的なプラン求められるも、ままならず。『いま、「集団的自衛権」におもう』をお客さんと共有したい、ぼくにとって一番の「今」の人たちと一堂に会し川崎で紹介したい、という夢のような願望あるのみ。

4月22日 三戸眞澄さん訪問。都々逸の話にメからウロコ。「文弥の都々逸版だぁ！」（わからない方ゴメンナサイ、説明省略）以後、ゲスト陣個々と会って打合せや稽古11回。ぼくのヨタ話を打てば響くように受けてもらいタジタジ。悪条件（受け持ち時間の短さ、ほとんど無料奉仕、など）にもかかわらず……。追って、石井彰二さんよりメールで自発的協力申し入れも（田中雄二さんと親交ありと）。

7月15日 国会前デモ（岡田京子と）



会場には日本国憲法前文も

7月24日 『いま、「集団的自衛権」におもう』の詠み稽古始める。初回参加者（有志）12人。以後計9回の稽古は、いつまでたっても試行錯誤暗中模索の反復のみ、予定の完成図に向かって積み重ね固めていくようにはまったくならない。櫛の歯が欠けるようにズルズル減って最後に何人残ってもらえるか？ 結果は一人も減らなかった（但し、メンバー異動あり）。「エッ？」

細田寿郎さんとは50年近くになる。年齢差からは兄貴だが、ぼくの実感ではオヤジ。そのオヤジに、今回は、ワカラズヤの気まぐれわがまま放題ぶつけて甘



巨大な巻物で詩が…

える。巻物がまさかあんな風になろうとは！ やっぱりオヤジは偉大なり！！

9月17日 国会前デモ（秋山ちづるさん・平瀬由季奈さんと）

チケット状況——本番5日前、現金化11枚。「トホホッ」ムリないよネ。どんな会になるのだから本人にもわかんないんだから、切符の売りようがないヤネ。だいたい、プログラムが確定したのが、当日の午前中。開けてみたら100人超えていたそうです（関係者含む）。「どこから？」

開演——のっけから「ドーン」とお客さんのパワーがきたのにタマゲル。私の秘かな想定の中には中途退席者続出の覚悟も入っておりました。

どういう会だったんだろう？ ナニが起こったんだろう？ これからの宿題ですが、ひとつには「状況」が大きく与ったのは確かでしょう。そういう意味では「アベさんに感謝（三戸さんの都々逸）」かな？

“安達元彦の音楽会”を鑑賞して

忘れてはいけないのだと思う

増田 成司

10月4日、スペース京浜で公演された“安達元彦の音楽会”（主催京浜共同劇団と共に歩む文化の仲間）を鑑賞しました。これは音楽会などという優雅な印象どころか今日本の国民は大変な事態に陥れられてしまったことを痛切に教えられました。冒頭の‘寝てはいけないのだと思う’‘黙ってはいけないのだと思う’‘諦めてはいけないのだと思う’の3つのフレーズは大事な意味が籠められていることを改めて感じました。私はさらに‘忘れてはいけないのだと思う’を加えたいと思いました。この音楽会で投げかけられたテーマは先の大戦であり、ビキニ環礁の原水爆実験であり、チェルノブイリの原発事故であり、福島原発事故であり、集团的自衛権行使容認です。加えて安倍首相が行った教育基本法の改定であり特定秘密法



集団での詩の朗読。腹で読む。

の制定です。自然災害は被害を少なくすることはできても止めることはできません。しかし今日のテーマは人間が行ってきたことであり、これからも行おうとしていることです。それは戦後70年間日本国民が不断の努力で営々と守り培ってきた平和と民主主義を国民の意思も無視し、殆どの憲法学者、歴代の内閣法政局長官、元最高裁判事さえも憲法違反だと指摘しているのに首相とそれに追随する議員達が「合憲」だとして安全保障関連法案を強行可決してしまったのです。憲法には権力側が遵守しなければならない規定（99条）がありますが、「集团的自衛権行使」も現行憲法の枠内だと強弁し、国民の支持がなくても成立させる。時間がたてば国民も理解する。まさに今の日本には立憲主義も国民主権もない無法国家となってしまいました。安倍首相は諸外国に対し、「わが国は法の秩序を守り、国際平和に貢献する」という趣旨の発言を何度もしま



お客さんも朗読に参加して...

すが、よくもこんなことがいえるものだと思うと同時に選んだ国民が悪いということになってしまいます。安倍首相は国民の平和と安全のために必要だといいます。しかし世論の60%が反対、80%が説明不足＝納得していない状況です。いつまでも国民を騙すことはできません。財界擁護と日米同盟強化以外頭のない安倍首相にはもはや何を言っても無駄です。国民は選挙と民主主義の大事さを安倍政権から教えられたのです。いよいよ私達が反撃しなければなりません。安保関連法に賛成した議員には投票しないことを肝に銘じて選挙に行くことです。

とてもよかった多彩な出演者

安達元彦さんをフォローする出演者は自作の詩の朗読と歌の田中雄二さん、沖縄のみならず核実験で汚染された南太平洋マーシャル諸島で犠牲となった島民と環境を守れと時にユーモアを交えて訴える武本匡弘さん、三味線と都都逸で世相を風刺する三戸眞澄さん、迫力あるピアノ伴奏のちづるさんと歌のたまこさん。福島から避難してきた星ひかりさんの報告で、政府発表を鵜呑みにした安全側誘導のマスコミ報道と現地の過酷な放射能汚染の実態とがいかにかけ離れているか。この問題でまた、東京オリンピックがピンチになるのではないかと危惧します。そして最後に暖かく人間味あるキャラクターで聴衆を楽しませた安達元彦さんのピアノと、みんなで歌った‘私の子供たちへ’。おまけにアンコールの要望で安達さんの‘新相馬節’で終演となりました。とてもいい企画でした。



田中さんの演奏

「安達元彦の音楽会」報告

明確に「これからだ！」と

野見山 絃一

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間主催の「安達元彦の音楽会」に参加した。(2015.10.4.PM2)

私は一方的に安達元彦氏の音楽＝作曲、編曲、作詞、演奏＝の会を思い浮かべていた。

そ、そしたら、な、なんと安達元彦プロデュースの音楽会だったのだ！

安達さんは朗々たるテナーで、田中雄二氏の『いま、「集団的自衛権」におもう』の一節を詠じ、観客に腹の底からの発声法と、余計な抑揚をつけず声を合わせようとするこゝもないとの注意を与えたうえで全員起立にて全文を詠むことを求めた。こうしてこの会の第一部は始まった。田中さんは本年7月1日の臨時閣議で安倍首相が日本の憲法をいとも簡単に解釈で軍備は持てる戦争も出来ると変えてしまったことに、いのちはぐくむ保育所には絶対に相容れない。寝ていては、黙っていても、諦めてはいけないのだと思うと即日この詩を書き上げたという。

川崎の隣の稲城市で保育園をやっておられる田中さんは次に『悲しみの向こうに・わが思い～新美南吉に捧ぐ～』という自作曲を歌われた。ごんぎつねなどの名作童話を残し戦争まっただ中の1943年に29歳で夭折した新見への思いが伝わってきた。

続く出し物は民俗芸能家の三戸真澄さんの出演で『大黒舞くずし』ときた。何故か当劇団上演の『ジョー・ヒル』などでもお世話になった石井彰二さんの作句で、三戸さんの三味線と石井さんのバンジョウの伴奏で安達さんの唄を聞くことが出来た。バンジョウはもう少し聞いたかった。『新作都々逸』はまさに手の内の三味の音に乗せて「人の恋路を」「三千世界の」とかの古典から藪から棒の改憲戦争法案が出てくるきな臭い世相までを詠み込んで鍛えられた喉を聴かせるもので



あった。

第二部は安達さんがお色直しして登場し『ぼくにとって「今」を共にする人たちと』とのことでたまこ(うた) & ちづる (ピアノ) のステージで始まった。彼女たちは一昨年亡くなったたつの素子さんの演奏会のステージでお目にかかったことのある方がただ、このステージではそのたつのさんが1990年の湾岸戦争の折に作詞し安達さんが曲をつけた「もしも」と昨年12月に亡くなった安達さんの戦友とも言える笠木透さんの戦争と縁を切った日本国憲法50年を詠った「きみよ五月の風になれ」が演奏された。

ダイバーを業とされている武本匡弘さんのレポート「ビキニから」は戦後すぐの1946年から始まった南太平洋マーシャル諸島の核実験。特に日本の第五福竜丸も被爆した1954年3月1日のビキニ環礁の原爆実験は近くのロンゲラップ島や他の島々の住民に重大な被爆傷害を与えた。武本さんは現地に通り、「ビキニを見ればふくしまが見える」と現在ビキニ、ふくしま



プロジェクト事務局長。ここでは笠木透作詞の「白い波」を安達さんの唄とピアノも交えて演奏。

再び、たまこ & ちづるの登場で笠木透詩による「五月の風の中で」と安達元彦曲のチェルノブイリ 26.Apr.'86. が演奏された。3.11 福島事故の折、チェルノブイリのような重大事故ではないと強弁した政府と東電の関係者の顔を思い出した。

最後のステージは郡山からお子さんとともに東京に避難されている詩人・星ひかりさんの福島から避難してのレポートと自作の詩の朗読。そして広島から福島の66年の歳月を想い、「しなければならぬことは」と詠う山本さとし詩曲の「ヒロシマの有る国で」を歌った。

演奏の全て終わったあと、安達さんの伴奏でみんなでうたいましょうと笠木透が「この日本の素晴らしい自然を私の子どもたちへ残すことが出来るだろうか」と詠った「私の子どもたちへ」を歌ってもう一度、寝ていては、黙っていても、あきらめてはいけないのだ

と思う気持ちをあらたにお客様は家路に向かうことになった。

「コンペア野郎に夜はない」(1968.11)のあのシンコペーションの効いた「レジャーバカンス何処の話さ、仕事に追われて、おれたちァ夜はない」のおみやの踊り以来の安達音楽と劇団との長いお付き合いは、私のような休団歴ウン十年の者にも「世の中変わる。やるべきことをきっちりやり続ける」との励ましを与え続けている。今回のこの音楽会も「解釈改憲、戦争法成立」と、「福島忘れ原発再稼働」というタイミングに明確に「これからだ!」と。(2015.10.10.)



三戸さんの都々逸

安達元彦の音楽会

平和を守るということは

匿名希望 (横浜市在住)

二村さんのお誘いで安達先生の音楽会に参加させていただきました。

遅れて席についたので「集団的自衛権」におもうを詠む大きな声で朗読を聞き圧倒されました。聞いているうちに私も一緒に声を出していました。

田中雄二(ひらお保育園園長) 悲しみの向こうにわが思い—新美南吉に捧ぐを聞いて、みなさん知っていますか、の問いかけで戦争中、戦後70年をわかりやすく朗読してくれ、感動いたしました。

寝てはいけない、黙ってはいけない、あきらめてはいけない。私たち老人も若者も、若いお母さんたちも、眠ってなどいません。黙ってもいません。子どもたちが戦争で殺し殺されないために「集団的自衛権」を廃案にするためにがんばっています。

新作都々逸は爽快でした。私が思っていることをずばり言ってくれ胸がすかっとなりました。

たまこ(うた) & ちづる(ピアノ)、力強い歌声でした。君よ五月の風になれ・五月の風の中で・チェルノブイリがよかったです。



たまこ&ちづる

武本匡弘(ダイバー)、ユーモアをまじえてビキニ環礁のことなどいろいろはお話をしてくださいました。心に残った話は、沖縄本島のサンゴは死滅してしまった、今残っているのは辺野古だけだということです。私達は今沖縄の苦しみをなくすには、基地をなくさなければ、平和はないと思います。

星ひかり(詩人)(福島から避難して)、福島の原発は収束したとっていますが、4年以上たっても子ども達は放射線の被害を受けているということです。

国民を守る、平和を守るということは海外で戦争をすることではないと思います。憲法9条を守りましょう。

みんなで歌いましょうでは、「私のこどもたち」を大きな声で歌いました。楽しかったです。

安達先生の大きな声を聞いて、十数年前のことを思い出しました。保土ヶ谷で、先生のご指導で合唱組曲を歌ったことを思い出しました。素人の私たちに教えてくださり、戦中戦後の歴史を組曲で歌ったこと。印象に残っているのは「湖畔の宿」の替え歌で「きのう生まれたぶたの子」などです。合唱団の名前は、にわかにかにできたので、「にわかーず」でした。またそのあと数年後に「ふるさと保土ヶ谷まつり」で三部構成劇で細田ご夫妻にお世話になりました。太鼓や朗読をご指導していただきましたことを思い出しました。その節はありがとうございました。皆様お元気、なによりでした。



武本さんと安達さんによる「白い波」



<安達元彦の音楽会> 雑感

静かな確かな声広がって

鈴木 たか子

<安達元彦の音楽会>を見聞きして、重たい主題（核実験、原発、原発被害、憲法への侵害……）に終始した会が、何故こんなに楽しい気分にくれたのか、開放された気持ちになれたのかな、と秘かに自問していた翌朝、二村さんから突然会報への原稿依頼が舞い込みました。明日旅立つ北海道でのコンサートへの最後の準備をやりかけた矢先。安達さんの会のことだし、安達さんには今までさんざん書くことをお願いしてきた手前もあり、もちろん会自体にいろいろ感ずるところが多かったので、引き受けましたが、次の日からの4日間の北海道の旅はひどく刺激に満ちていた上、安達さんの会への印象は豊かだけれどバラバラだったので、なかなか書き出せませんでした。

<安達元彦の音楽会>は、《安達元彦プロデュースによる、戦後の歴史を振り返り、今の現実をみつめる、音楽も散りばめられた会》でした。

三方から客席に取り囲まれた舞台は一番低く位置し、出演者も客席の一角に座って出番を待たれていましたが、この会場の作り方はみんなで《今の現実をみつめる》ことにふさわしいものでした。舞台正面には、朗読に伴い田中雄二さんの文『いま、「集団的自衛権」におもう』が巧みな巻物として現出し、お客さまにもあの長い文と一緒に読んでもらえたのです。あの装置



造りの妙にはとにかく感動しました。どうすればいいかをとことん考えそして一番いいものを作り上げてしまうまさに京浜協同劇団が培ってきた見事な知恵と技術が、安達さんの想いをかたちにしていたことが嬉しかったです。更にいうと、舞台というものの感動は、表であれ裏であれそれに関わっている人間のひたむきな丁寧さ誠実さが、主題云々の前にまず、人間を開放してくれることを梃子にした楽しさ喜びなのだ、と思いました。

劇団の技も長年の工夫の積み重ねで磨かれたものでしょうが、三戸眞澄さんの都々逸では、民俗芸能の持つしなやかな強さに、その芸能の生きてきた時間の長さを感じました。都々逸は初体験でしたが愉快で、眞澄さんの気張りきった可愛らしさと芸の巧みさは、見事に人の気持ちをゆるめ繋いでいきました。私たちは民俗芸能をひとつ失うと、繋がりあう方法をひとつ失う事になる、とはっきり思えました。

ところで、プログラムはまず、『いま、「集団的自衛権」におもう』を詠むことから始まりました。私は3回しか稽古に出られず、当日は出演できない落伍者でしたが、安達さんの稽古はいろいろ考えさせられ



した。<からだで読む><からだにおさめる><等拍性><声を出す事で自分としてしっかり肝におとす><言葉をしっかり食べて欲しい><言葉の音をしっかりと噛む、噛みによって等拍になる><噛むときの緊張が音の高さになる><噛みごたえによってテンポ高さがでてくる>などなど……あたふたしていると見逃してしまう何か静かな底力をぼんやり感ずるような安達さんの言葉でした。

当日の出演者の詠み声はスローガンでもなく感情移入でもない確かな噛みしめた声でした。それはお客様の声をすぐに誘い出し、会場には静かな確かな声広がっていき、それがゲストの方々を載せる大きな受け皿になったように思えました。（これは安達さんの意図したところ？）2時間半におよぶ会はこのように始まったのです。（終わり）

8月15日 劇団屋上で花火観賞納涼会

平和であってこそ、花火も楽しめる

平林 茂

8月15日京浜協同劇団の屋上で、大田区「平和花火」を楽しんだ。以前から話には聞いていたけれど、初めての参加だった。直線距離で2km位と思うけど、ビルの谷間からとてもよく見えてビックリした。手づくりのヤキトリをはじめ、おいしい肴がいろいろあって、ついビールがすすんでしまった。酔ったいきおいで、室内での二次会にもおじゃましてしまった。いろんな方々の話が飛びかい、ほんとに楽しい一夜であった。

一時期、夏は花火を見る旅を続けたことがあった。山下清の絵でも有名な、新潟・長岡の花火は、さすがにすばらしかった。個人スポンサーによる「〇〇さん、結婚おめでとうございます」という花火の打ち上げが、新鮮だった。今でも、ぜひ一度行って見たい花火は、遠州新居の手筒花火だ。地元若衆が手づくりの手筒花火を身体に巻きつけて走りまわって打ち上げる、刺激的な映像が目に残っている。

さて、話はガラッと変わって……。

2015年9月13日(日)。地元の仲間たちと横須賀へ。「横須賀の原子力空母永久母校化に反対する大集会」、8000名の参加で、デモ。

14日(月)。妻文子と国会へ。実は、11日(金)は久しぶりの晴天。妻の昔の教員仲間から電話があり「文ちゃん、国会へ行こうよ」と誘ってくれたが「私は行けない」ということがあったのだ。国会図書館前からその2人の女性に電話すると、あんのじょう正門近くにいた。「わあー。来たんだ!!」と、とても喜

んでくれた。この2人は連日のように国会へ来ている。「私の中に、こんな情熱がまだ残っていたことに驚いている」と妻へ手紙をくれていた。

17日(木)。地元の女性たちに声をかけられて、国会へ。印象的な2人の老婦人を見かけた。お1人は、例の赤い「戦争させない」のポスター持って、2時間以上、車道に向かって1人で立ち続けていた。もう1人は、手書きのポスターを脇にはさんで、同じ地下鉄で帰路についた気品のある方だ。この日は、神奈川新聞の記者に長時間取材され、翌日、写真付きの記事になっていた——恥ずかしい。

18日(金)。1人で国会へ。地元の仲間Nと、携帯で連絡をとり、正門舞台裏の憲政記念館の庭で会えた。雨の中、金子勝・室井佑月さんの発言が聞けた。シールズの元気の良いコールにも初めて参加した。帰路、久しぶりに「おでんR」での日本酒がしみた。Nたちと飲む酒が、この頃やけにうまい。帰宅して、眠かったが意地で国会中継を見続けて、怒りをぶつけた!! くやしい。挫折感もある。でも、始まりでもある。大切な4人の孫たちのためにもがんばり続けるしかない。

19日(土)。日本共産党が、「戦争法(安保法制)廃止の国民連合政府」の実現をよびかけます、を発表。

20日(日)。夕方、ラゾーナ前で宣伝。

22日(火)。午前、渡辺学カーで宣伝。

とりあえず、来年7月の参院選に向けて動きだそう。

劇団員の大谷敏行さんは、知る人ぞ知る、俳句・川柳の名手。「文化の仲間」会報にも句を寄せていただきました。これらはいずれも、「しんぶん赤旗」に投稿し、掲載されたものです。今後、折に触れて、句を寄せていただきたいと思えます。(日付は掲載日)

大谷敏行の俳句・川柳

○川柳

遣る瀨ない戦後はないと沖繩は

15年7月12日

恐ろしや病院という伏魔殿

15年3月17日

残虐と百遍言っても言い足りぬ

15年3月1日

幹事長深謀遠慮立ちつくす

14年8月31日

両の手に司法行政鷲掴み

14年3月30日

暴走が眠る主権を目覚めさせ

15年10月11日

○俳句

啓蟄やふさぎの虫も跳び出す日

14年4月6日

「戦後 70 年を機に、自分史を振り返る」・その 2

——創作と舞台を中心に——

小田 健也

○「集団的自衛権」と明治時代の「富国強兵」

「敵は幾万ありとて すべて烏合の勢なるぞ 烏合の勢にあらずとも 味方に正しき道理あり……」或る年齢以上の人なら、誰でも一度は口ずさんだことのある軍歌だが、曲名は『敵は幾万』、歌詞は山田美妙斎、作曲は小山作之助、作られたのは明治 24 年とあるが、この歌に象徴されるように、富国強兵の流れは、ますます露わなものになっていき、明治 27、8 年の「日清戦争」の勝利が、ますます富国強兵の国家方針を強めていった。当時の議会で「軍艦や大砲を外国から買っているようでは駄目だ」という声上がり、「明治 34 年に二千万円をかけて八幡製鉄を設立し、軍艦の建造を始めた」と歴史書に記されているが、こうした国家的な方針がやがて、明治 37、8 年の「日露戦争」を引き起こしていったと言っていいだろう。

しかし明治時代とは云え、すべての人々が戦勝ムードに浸っていたわけではない。その記念碑的な文学作品として、女流詩人の、与謝野晶子の「君死にたもうことなかれ」がある。

この詩を軸に、私とユ一企画の蒔村由美子とで、構成劇「詩と歌で平和を希った人たち」という朗読劇を創り、2006 年から数年に亘って公演を続け、多くの方から共感を得られた。

——ただ残念なことは、嘗ては京浜協同劇団の一人であり、これら一連の企画を実現させた蒔村由美子さんが、この公演を最後に、2009 年 4 月に亡くなったことである——。

では、この「君死にたもうことなかれ」の一部を再録しておこう。

『君死にたもうことなかれ』旅順口包圍軍の中に在る弟を歎きて、与謝野晶子

——ああおとうとよ、君を泣く、君死にたもうことなかれ、末に生まれし君なれば、親のなさはまさりしも、親は刃をにぎらせて、人を殺せとおしえしや、人を殺して死ねよとて、二十四までそだてしや。

——暖簾のかげに伏して泣く、あえかにわかき新妻を、君わするるや 思えるや、十月も添わでわかれたる、少女ごころを思いみよ、この世ひとりの君ならで、あまた誰をたのむべき、君死にたもうことなかれ。

——何度口ずさんでもいい詩だ。作曲もあるので、いろいろな集まりで取り上げて、朗読と歌で愉しんで欲しい——。

○続けて、大正時代以降も俯瞰してみると……、

第一次世界大戦勃発、ロシア革命、中国では反帝五・四運動と、世界的に反体制の動きがみられた。また、普通選挙法が衆院で採択され、富山に始まる米騒動が全国に広まり、大正デモクラシーと言われた時代でもあったが、しかし大正 14 年に治安維持法が公布され、昭和 20 年まで戦争の時代が続く。昭和初期の世界的大恐慌は、列強諸国を市場獲得競争へと向かわせ、日本政府も、旧満州地域への支配を強めていく。そして昭和 6 年の満州事変、昭和 12 年の日中戦争、昭和 16 年の太平洋戦争（第二次世界大戦）へと進んでいくのである。

私の幼少から中学までは、生まれてすぐに満州事変、小学校に入学するとすぐに日中戦争、そして小学校を卒業する頃太平洋戦争で、中学三年でやっと戦争が終わるという世代だから、もっともっと戦争の苛酷さと無意味さについて語らねばならぬだろう。京浜協同劇団でこの春再演された「人のあかし」も、こうしたテーマに共通するものであったが、〈今〉という時代に生きていて、なお且つそれを〈歴史的に見る〉ということとは、大変難しい問題である。

私はこうした「大日本帝国」がアジア諸国を侵蝕していく、その真っ只中で、小学校、中学校を過ごしていった。



朗読劇「詩と歌で平和を希った人たち」(写真：小田さん提供)

京浜協同劇団 55 周年記念公演第 3 弾 (No.89) のご案内

超オモシロいですよー、今回は。

京浜協同劇団 和田 庸子

「あの劇団」がこんなドタバタ演劇をやるのか？と、目と耳を疑わないでくださいね。メニュー 6 作品を取りそろえ、演劇大好きな若者たちの力も借りて一挙上演いたします。

満を持して、稽古が始まりました。

タイトルが「ブラック・カフェ」なんですけど、稽古日程も超ブラック短期決戦。何しろ、6 作品に劇団員は 20 人そこそこ。大小二つの稽古場と事務所も稽古場に変身させ、同時 3 発稽古の真っ最中です。

公演の発端は、いたってシンプル。「ナチスドイツの時代に劇作家ブレヒトが書いたオムニバス劇『第三帝国の恐怖と貧困』のような作品をやろう」オムニバスとは、独立したいいくつかの作品をひとつの公演にまとめたもの。一つ一つが短い作品なら、皆で書いて作り上げようよ……。なーんちゃって始めてはみたものの、これがなかなか……。行きついた先が今回の「ブラック・カフェ」です。ところがこれ、ひょうたんから駒、「歩」をひっくり返せば「金」になる、かもしれません。

「日進町ゴジバ」は今年 5 月、川崎の簡易宿泊所の火災（11 名が命を失いました）を背景にゴシップ好きなご近所のおばあちゃんたちと、死者とその娘の哀歓が交じった作品です。ゴジバって聞き慣れないでしょう？それは見てのお楽しみ。

「生活相談室」は生活保護（制度）を考えるブラックユーモアの世界。

「耳を澄ませば」は都会（国会議事堂の地下）に住むモグラと、田舎（福島）のモグラのかけあい漫才。

「最後の授業」は憲法「改正」問題をシリアスに、「レンタルショップ」は実は……とお伝えしたいのはヤマヤマなのですが、がまん我慢、このあたりでやめておきましょう。だって、どうしても「ブラック・カフェ」においでいただきたいんですもの。全部お話してしまつては、ネ……。

創立 55 周年、京浜協同劇団が心をこめて贈る「ブラック・カフェ 日本の恐怖と貧困」ごゆるりとお楽しみいただけますよう、開演まで今しばらくお待ちくださいませ。

 京浜協同劇団 55 周年記念公演 第 3 弾 第 89 回公演

待望の集団創作劇

高度成長期の初期、川崎に生まれて 55 年。歴史的転換の今、「この日、この地で、この人々と」の意味を問い直す意欲作！

ブラック カフェ

—日本の恐怖と貧困—

公演日程

開演	2015 年 11 月			12 月					
	27(金)	28(土)	29(日)	4(金)	5(土)	6(日)	11(金)	12(土)	13(日)
昼 2 時		○	○	○	○	○	○	○	○
夜 7 時	○			○					

作 創作グループ 演出 演出グループ

会場 スペース京浜

前売料金 一般 2,900 円 70 歳以上 2,200 円 30 歳以下 2,000 円 障がい者・学生 1,500 円

各当日券は 500 円増

一般社団法人京浜協同劇団 川崎市幸区古市場 2-109 <http://www.keihinkyoudougekidan.com>

[お申込み・お問合せ] TEL. 044-222-8821 FAX 044-533-6694

◎文化の仲間通信◎

◆劇団俳優座 公演 No.326

ラスト・イン・ラプソディ

日程 11月18日(水)～29日(日)

開演 昼 13:30 夜 18:30 (詳細問合せ)

会場 俳優座劇場 (六本木)

作 美苗/演出 原田一樹/出演 可知靖之・荘司肇・

児玉泰次・河原崎次郎・中寛三 ほか

料金 一般 5,400円 学生 3,780円 (全席指定)

黄昏を迎えて、人間は最期に、何を願うのだろうか。
何が幸せなのだろうか――。

寄る辺なき患者らと老医師たちの葛藤の物語。

問合せ 劇団俳優座 03-3405-4743

<http://www.haiyuza.net>

◆おやじの太鼓コンサート

日程 11月29日(日) 昼 15:00/夜 18:00 開演

会場 川崎アートセンター アルテリオ小劇場

入場料 全席指定 2000円

主催 川崎おやじ太鼓連 (市内8サークルに所属する
「おやじ」の連絡会)

普段はサークルの中で少数派の「おやじ」たちが、
この日は主役になってエネルギーを爆発させます。

問合せ 吉田 080-1038-9089

梶原 090-7712-5060

※昼の部のチケットは売り切れしました。

◆川崎市民劇場例会

エイコーン公演 メアリー・スチュアート

日程・会場

さいわい市民劇場 12月12日(土) 16:00 幸市民館

市民劇場なかはら 14日(月) 18:00

15日(火) 13:30 エポック中原

たま・あさお市民劇場 16日(水) 18:30 多摩市民館

作 フリードリヒ・フォン・シラー/演出 加来英治
/出演 栗原小巻・樫山文枝 ほか

ドイツの詩人、劇作家シラーの代表作。

申込み・問合せ さいわい市民劇場 044-244-7481

市民劇場なかはら 044-455-7950

たま・あさお市民劇場 044-911-6920

◆劇団民藝 公演 根岸庵律女

日程 12月4日(土)～19日(日)

開演 昼 13:30 夜 18:30 (詳細問合せ)

会場 三越劇場

入場料 一般 6,500円 学生割引 4,000円

夜チケット 4,500円

作 小幡欣治/演出 丹野郁弓/出演 奈良岡朋子・

中地美佐子・齋藤尊史 ほか

小幡欣治の名作再び――。“詩精神”支えた女性を
温かなまなざしで人間味あふれる小幡氏による民藝書
き下ろし。98年初演以来の再演。

問合せ 劇団民藝 044-987-7711

<http://www.gekidanmingei.co.jp>

◆青年劇場〈創立50周年記念〉

スタジオ結企画 第6回公演 あの夏の絵

日程 12月11日(水)～20日(日)

開演 昼 14:00 夜 19:00 (詳細問合せ)

会場 青年劇場スタジオ結

入場料 一般 4,500円 U30(30歳以下)3,000円

高校生以下 2,000円 日時指定・全席指定

作・演出 福山啓子/出演 青木力弥・藤井美恵子 他

被爆から70年。記憶を伝え残すために語り始めた
被爆者と、それを受け止め、絵に表現することに挑ん
だ高校生たちの2015年夏。待望の書き下ろし。

問合せ 青年劇場チケットセンター 03-3352-7200

<http://www.seinengekiyo.co.jp>

◆合唱団いちばん星第32回コンサート

美らうたよ ひろがれ

日程 2016年1月11日(月・休) 14:30 開演

会場 エポックなかはら大ホール

入場料 1,200円 障がい者・小中高生 300円

指揮 山寺圭子/ピアノ 梅澤文子

演目 第1部 混声合唱組曲「海の祈り」/第2部
みんなで歌おう/第3部 沖縄・美らうたステージ
(チビチリガマ・芭蕉布・喜瀬武原・島唄 ほか)

問合せ 照井 090-8109-3829

http://music.geocities.jp/ichibanboshi_2/

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃[Ⓔ]

